

ユニセフ人道支援地域 2022

巻頭の特集で取り挙げた4地域に加え、ここでは、
主な6地域の人道危機の状況についてお伝えいたします。
現在ユニセフは**145の国と地域**で緊急人道支援に取り組んでいます。

エチオピア北部の危機

エチオピア北部で軍事衝突が発生して以来、広範囲で戦闘が続き、人道支援の必要性が高まっています。複数地域で武力衝突が起こっているほか、干ばつなどの異常気象、感染症の流行によって国内避難民が発生しており、食料不安も高まっています。1,560万人の子どもを含む2,940万人以上が緊急人道支援を必要としています。



ギリシャ、レスボス島の難民キャンプで自転車に乗る子ども
(2021年3月)
© UNICEF/UN0434859/AFP

欧州の難民・移民危機

2011年のシリア危機以降、現在もギリシャ、イタリア、ブルガリア、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロの欧州6カ国にいる11万人の子どもを含む47万2,000人の難民・移民が支援を求めています。なかでも、親と離ればなれになるなどして、おとなの同伴者がいない1万人の子どもたちが緊急人道支援を必要としています。

アフガニスタンの情勢不安

国内で情勢不安と市民への攻撃が続くなか、1,260万人の子どもを含む2,440万人が緊急人道支援を必要としています。学齢期の子どものうち420万人が学校に通っておらず、1,000万人以上が教育支援を求めています。こうした教育の停滞で、児童婚や児童労働の増加が懸念されています。さらに深刻な干ばつによって2,300万人近くが食料不足に陥るおそれがあります。



学校や友達が恋しいと話す国内避難民キャンプで暮らす10歳のハヤットくん(2021年2月)
© UNICEF/UN0418437/Ayene

急性栄養不良から順調に回復している1歳のエハンくん
(2022年1月)
© UNICEF/UN0595963/Qayoumi



中央アフリカ共和国の紛争

2020年12月の大統領選挙に伴う武力衝突が一般市民、特に子どもたちに大きな影響を与え、2021年9月末時点で72万2千人が国内避難民となっています。加えて、コロナ禍で保健サービスや国内経済が停滞しており、2022年には人口の63%にあたる、子ども140万人を含む310万人が緊急人道支援を必要とする予測されています。



アレppoの避難民キャンプでユニセフから届いた衣服の箱を開ける4歳のラシッドくん(2021年10月)
© UNICEF/UN0581234/Almatar

中東の長期化する紛争 (シリア国内、シリア難民、イエメン)

シリアでは、11年にわたる紛争の影響で、人道支援を必要とする子どもの数が610万人に上ります。またイエメンでは、依然世界最悪の人道危機にあり、長引く武力紛争の影響で、経済や国のサービスが崩壊し、1,130万人の子どもを含む人口の70%が人道支援を必要としています。中東の人道危機的状況は長期化しています。

ミャンマーの危機

未曾有の政治的・人道的危機に直面しているミャンマーでは、紛争の拡大、深刻な人権侵害、コロナ禍、自然災害の増加、貧困の拡大、公共サービスの崩壊によって、500万人の子どもを含む1,440万人が人道支援を必要としています。国内全域で子どもたちの命と健やかな成長が脅かされている状況です。



首都バンギのユニセフが支援する給水施設で水を飲む2人の子ども(2021年3月)
© UNICEF/UN0436571/Zigoto Tchaya

母親から栄養治療食を与えられる3歳のミン・ハイン・ヒテットくん(2021年11月)
© UNICEF/UN0556776/Htec

